

第2回恵那市教育振興基本計画策定委員会会議録

開催日時 令和7年7月29日（火） 午後1時30分～

開催場所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

出席委員	委員長	相 原 正 文
	副委員長	西 尾 朋 子
	委 員	瀬 瀬 康 雄
	委 員	鈴 木 圭 子
	委 員	安 田 和 枝
	委 員	森 川 彰 夫
	委 員	熊 谷 春 彦
	委 員	鷹 見 健 司

欠席委員	委 員	西 部 良 治
	委 員	三 宅 祥 市

事務局	教育長	岡 田 庄 二
	副教育長	工 藤 博 也
	事務局長	鈴 村 幸 宣
	事務局次長兼学校教育課長	丸 山 頼 彦
	教育総務課長	瀬 瀬 千 尋
	教育総務課総務係長	志 津 博 光

開会

教育総務課長

定刻となりましたので、ただいまから第2回恵那市教育振興基本計画策定委員会を開会いたします。私は、本日の進行を務めます教育総務課の瀬瀬と申します。よろしくお願いいたします。本会議につきましては、恵那市教育委員会附属機関等の会議の公開に関する要綱により公開を行い、会議終了後に会議録を作成して、市のウェブサイトで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日、西部委員と三宅委員は、都合により欠席となりますのでお願いいたします。それから鈴村事務局長ですが、今、ほかの会議に出ておりまして、途中で参加いたしますので、よろしくお願いいたします。

なお、この会議につきましては、おおむね1時間30分をめどに終了したいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、着座にて失礼いたします。これよりレジュメに沿って進めさせてい

たですが、初めに岡田教育長よりごあいさつ申し上げます。

1 あいさつ

教育長 今日では策定委員会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。
先ほどですけれども、恵那市の第3次総合計画の案が市長の方に答申されました。今後、議会で議決されて通っていくということですが、おおむね前回お渡ししましたものと大きく変わっているところはございません。それも踏まえての教育振興基本計画ということで、今日私たちも案を提案させていただくところでございます。前回、基本構想につきましては、ご説明をさせていただいたところでございますが、改めて何かあれば、そこも教えていただきたいと思います。今日、特に時間を割いていただきたいのが、基本計画のところの方向です。まだ具体は入っておりませんので、その方向がこれでよいのかということ。それが決まっていきましたら、それぞれ各課等が持っている計画とも整合させながら取組例も含めて具体的なものにしていきたいと思っておりますので、ぜひいろいろなお立場からご意見をたくさんいただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 議事

教育総務課長

次第第2の議事に入ります。事務局から順次説明させていただきますが、資料の事前配付をしているものですから、お目通しをいただいているというふうに思っております。よって、事務局からの説明はできる限り簡潔に行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、要綱第6条第1項の規定により、議事は、委員長が議長を務めることになっておりますので、相原委員長に進行をお願いいたします。

委員長 これより要綱に基づき議事を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。初めに事務局から現計画の実施状況について説明をお願いします。

教育総務課総務係長

議事（1）現計画の実施状況について説明。

委員長 ありがとうございます。委員さんも資料を一度見ていただいておりますので、それぞれ立場の中でご不明な点やご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。先ほど教育長も話しておりましたが、議事（2）の方向性の方が本日時間を取るところですので、ここでは少し気がついたところでお話をいただければと思います。私が口火を切りますが、社会教育委員会でちょっと話題になったのは、先ほどの、家庭において親が子供に先祖や家の歴史を伝えることなどうんぬんとありますが、ここは改善点があるのではないかという意見がありましたので、ご報告させていただきます。皆さん、いかがですか。

委 員 今、ご説明いただいたところの郷土資料の整理のことについてお伺いしたいことと、あと意見を述べさせていただきます。
まず、お聞きしたいのが、この郷土資料と一口に言っても、恵那市が持っている

る郷土資料というのはとてもたくさんあると思います。そのとてもたくさんある郷土資料を岩村振興事務所の2階と言っても、広さがどの程度かも分かりませんが、全てを収納するというのはとても大変なことだと思います。だから、その郷土資料をどのように、どういった基準でこの選定といいますか、選ばれて、ここに収納されるのかといったことが知りたいと思います。

その上で、やはり私としては、今後活用すべき資料かどうかといった点が大事ではないかと思っていて、そういったところで選ばれた資料を、例えば恵那市はICTの進んでいる市なので、QRコードなど、市民が活用しやすい工夫をするとよいのではないかなと思っています。

委員長 ありがとうございました。では、どうぞ。

事務局長 郷土資料の集め方ということでございますけれども、基本的には、今ある岩村歴史資料館、それから東野にありますおおご遺跡資料館、山岡にあります山岡郷土史料館など、こういったところにある資料をまず中心に集めます。それ以外にも当然資料は各地域にございます。集めた中で保存については、いわゆる将来にわたって永久的に保存しなければいけない重要なものと、そんなに温度・湿度を管理しなくても保存ができるもの、それから屋外ではないですけども、地下の倉庫でもいいもの、こういったような種類に分けて保存していこうかなと思っています。今、この新歴史資料館の検討委員会というものが別にございまして、その中で協議をしているわけですけど、その中でも全部持ってきてしまうのではなく、地域にも残してほしいものがあるというご意見は出ています。そういったところは地域のコミュニティセンターを中心に、そこで保存、活用していただくという形になろうかと思います。それを今度、歴史資料館の学芸員の方が、こういった形で皆さまに見せていくかというところで、今、言われましたようなデジタル保存をしながら、紹介していくことはできるかなと思います。学校に関してもそういったところを活用していただけるのではないかと思います。確かにおっしゃるとおり、場所は限られていますので、全部持ってきて全部入れてしまうというのは、やはり無理があると思いますので、その中で似たようなものは、映像保存だけにするというのも一つの方法と思っています。

委 員 ありがとうございます。

委員長 ありがとうございました。そのほかございますか。

委 員 私、初めての会議なので、今回、一生懸命資料を読ませていただいて、非常にいろんなことが実施されているということが分かりました。私は、青少年の関係ですので社会教育課の関係かと思うのですが、自分たちで一番思うことは、いろんなことを実施はしているのですが、効果検証ができていないということを感じます。これに関して、今日もこれを見せていただいて、前回頂いた資料の中で、エビデンスのあるようなものもあるのですが、要は、実施したことは分かるのですが、これによる課題とか効果検証が、私、今回初めてなのでちょっとここでは読み取れなくて、これをやったことによる効果があって、KPIのような数字で出せるようなものではないかと思いますが、

自分たちも青少年の行事をやっていることはやっているのですが、それに対して効果検証が自分の中ではなかなかできていない。そこら辺ができた上で、次の計画にというような思いがあって、その辺のことがどうかなと思いました。

教育総務課長

現行の教育振興基本計画については、実はK P I の設定をしていないです。その理由として、この教育振興基本計画というのは、教育委員会の中にもいろいろな計画があって、それをまとめたものがこの基本計画になります。よって、このK P I の設定はどこでしているかという、各個別計画という細かいものがある、その中でK P I 設定をしております。それを寄せ集めた大綱、基本計画については、基本的な方針を定めた総合計画に近いもの、要は教育委員会バージョンの総合計画というような形になりますので、ここではK P I を設けていない、そういうふうな回答にさせていただきたいと思います。

委 員 今、効果検証がどれだけされているかということかなというふうに思います。あと、それに向かって効果がある、効果検証がされている上で、E B P M、エビデンスに基づいた計画がなされるといいかなと思いました。

教育総務課長

ありがとうございます。その辺につきましては、作業部会という職員でつくっている専門の部会がございますので、その辺も頭に入れながら、今回の計画の方に取っかかっておりますので、よろしくお願いいたします。

委 員 お願いします。

委員長 作業の面まで、今、言っていたので、今度は後半で方向性などの文言を見てもらいたいと思います。

委 員 その文言を見るための効果検証があるといいなと思ったわけです。

委員長 はい。そのほかございませんか。よろしいですか。
それでは、次の次期計画案についてという2番目の議題に入っていきたいと思います。今のこの実施状況が基になると思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。では、事務局から説明をお願いします。

教育総務課総務係長

議事（2）次期計画案について

①計画の策定、基本構想について説明。

委員長 ありがとうございます。私どもも一度読んで来ておるわけですが、分からないこと等がございましたら、ご質問、ご意見をお願いします。

少し私の方から、23ページに「世代ごとの学びのあり方」がありますが、ここはやはり三学の精神にのっとり、少年期、壮年期、老年期と書いてあるのですが、これを見て恵那の人はどれぐらいの年齢かというのは分かるのですけれども、どのような教育委員会のお考えか教えてほしいのですが。この年齢期というか、我々は生涯の年齢があるわけなのですが、生涯学習ということでございます。

教育総務課総務係長

何歳から何歳までということですか。

委員長 そうですね。我々で言えば、どちらかというと老年期という感じなのかなとか、そういったイメージ。これは学生ばかりが見るわけではないので。

教育総務課長

一般的にこの少年期というのは、やはり学生というイメージで、壮年期が社会に出る年齢。老年期というのが、委員長がおっしゃったように社会で仕事を終えて第二の人生を歩むというそういうことをイメージしています。

委員長 第二の人生というのは、仕事も変わってきますし、人生100年というのがあるのかなという感じなのですが、皆さんはいかがですか。何でも結構でございます。

委員 5年前の時のことを思うとコロナの一つ時代があって、最近、特に新聞やニュースなどで気になるのが、SNSの話が非常に取り沙汰されていて、主体性のところなのかなというところも思うのですが、そういったものというのは、何か加味されたところがあるのかどうかと思っていたので、教えていただきたいと思います。

委員長 具体的な方向のところにはあるのですが、その前提のところ、どうかということになってきますが。

教育総務課長

今、説明した前提の部分では、その細かいところまでは表現しておりませんが、次②の施策と取組の方向性については、やはりICT教育、そういうものが出てきますので、その中でこう網羅している、そんな形にしております。

委員長 大人のそういうSNSの、ましてや教師の資質に関わることもあります、我々の世代と違う新しい分野でのSNSを利用した犯罪。軽犯罪ですね。そういったことを恵那市の教育における現状、課題、に少しずつ入れながら、課題として捉えていくのがいいかなと思います。皆さんSNSの関連のところ、どうでしょうか。

委員 先ほど課長さんがおっしゃられたように、扱う内容としては、そのICT教育のところでのその情報の取り方みたいな、あるいは発信の仕方というところに当然なってくるでしょうし、社会の課題としては、当然、今、大きな問題としては捉えが必要かなと思います。

委員長 ありがとうございます。それでは、次の施策、取組の方向性について、事務局から説明をお願いします。

教育総務課総務係長

議事（2）次期計画案について

②施策、取組の方向性（基本目標1）について説明。

委員長 ありがとうございます。ここで10項目あるわけですが、専門的な立場から見ていただいて、ご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員 教育・保育のところで、4本柱で一生懸命やっている中で、保育教諭の離職率

が、今、本当に悩みであります。教育・保育の資質向上という面も、本当に教育委員会、幼児教育課の方も研修などいろいろと一生懸命行われているのですが、若い職員に聞くと、その研修がちょっと苦労だというような意見もありました。その資質向上の研修と、残ってもらうための何かしかりしたことを、幼児教育の現場としてはやっていかなければいけないと考えています。1年目に研修がやはりちょっと多いのですよね。1年目の入ったばかりのときにすごく研修をしても、学生から上がってきた職員なので、1年ぐらい経験を積んでいろんな疑問が湧いてきたところで研修をするのがいいのかなとも思っているところです。何とか恵那市に残って職を続けてもらいたいという思いがあります。

委員 青少年関係のことをやっております。1－8のところで、1－4、1－9の全てに関わってくことで、「青少年育成に貢献する地域の指導者を支援します。」という部分があります。ここに関わって地域クラブですね。学校の部活がなくなって地域クラブ化していった。ところが、この地域クラブになったことで、青少年の方で意見がたくさん出てきたのが、これは親ガチャになってしまったということです。なぜかという、バドミントンをうちの息子はやりたいと言った。ところが、バドミントンクラブが恵南地域にない。近くにない。部活でやってきたことができなくなって、他の地域まで行かなければいけない。そうすると、そこへ送り迎えができる親はいいのですけれど、送り迎えできない親は、子供に諦めなさいと言うしかないという親ガチャが起きているというふうなことがあって、都会では交通網が発達していますし、私も名古屋出身ですけど、地下鉄に乗ってどこのお稽古とかでも行けるのですね。ところが、恵那だとバス、明知鉄道とかを使ってということになると、この地域への青少年を支援する指導者、あるいはその地域クラブの指導者とかそういうことで、子供たちが実はこれまで部活でやれていたことがやれなくなって、親は諦めなさいと言わなければいけない現状なんですということを幾つかの会議の席で多く意見を聞きました。地域クラブのことにに関して、恵那モデルではないですけど、何かその形ができていくと良いと思います。これは去年のうちの各部会の会議で出てきた言葉なので、私というよりも皆さんの意見として、そういうことがあるということです。去年のこども・子育ての会議の中では、教育委員会の方でも校長会を中心にその辺のことを考えて今後やっていくというお話がありました。やはりその辺のポイントを押さえてやっていかないと、言葉尻でいくと、地域クラブを通じて小中学生がやりたいことをやらせますと書いてあるのですけど、できないということが起きてくるということで、何かそれを補填できるようなことを、施策や取組の中でやっていくことで、最後にあるトップアスリートをつくっていこうとか、そういう部分にもつながっていくのではないかと思います。後は、その親さんたちの意見の中で、いわゆる部活はこれまで学童と同じ状態だったので、部活をやっていたら5時まで学校が見てくれていた。ところが、今、家に帰ってきたってあれだし、遠い子だと家へ帰れない。じゃあ、その子たちの居場所をどこにするかと。その子たちがどこにいた

らいいのかというような意見も出ていました。やはりそういう部活とかというのは大きな問題で、その親さんが子供に諦めさせるしかなかったという言い方をされたときに、非常につらいなと思いましたので、その辺を取組の中に入れていただけたらと思います。

委員 部活動の地域移行というと、運動系をイメージされる方は多いと思いますが、文化系の部活動もあるわけで、その文化系の受皿ですね。受皿をどういうふうにしていくかといったことは、非常に課題だなと思っています。例えば吹奏楽でいうと、その楽器が必要なわけで、その楽器のメンテナンスは、今まで中学校が部活動費で備品としてやっていたわけです。今後、地域移行でクラブ化していくということになったときに、そういったところの補助ですね。補助とか補償とか、そういったことがやはりきちんとなされていかないと、なかなかやりたいと思っても自分で楽器を買わなければやれないとなってしまうので、運動系プラス文化系も含めた部活動の地域移行について、施策で入ってくるというかなと思います。

委員長 方向がこのように向かっているので、何かそういう施策として、具体的なそのモデルになっていくと。そして、保護者もそういうことが分かれば、子供を送迎したりするのも理解するのではないかなと思います。拠点があればというふうに思います。あと文化クラブというか、そういう文化・芸術ですね。

委員 はい。今、教育委員会では、そういったことも踏まえながら考えていらっしゃる最中ということも聞いているので、施策には反映してくださると思っております。

委員 何年かかかってでもいいので形になってくるといい。やはり親さんたちも恵那に住んでいても、子供がやりたいことをやらせられないとなると、恵那を離れていってしまうような気がするので、恵那に住んでもらうための一番のところかな。子供たちがやりたいことができる環境をつくってあげるというところが取組にも入ってくるといいかなと感じました。

委員長 続けて、競技力向上の件でお願いします。

委員 スポーツで言うと、もう20年、30年ぐらい先には、部活は30%、半分近く減ってしまうのではないかなという想定の中で、特に落ち込んでいくのがチームスポーツです。チームスポーツは、今、大人もそうなのですが、チームスポーツがぐっと落ちてきているということで、これは、社会性やコミュニティなど、そういったことで大事なところなので、何とか少しでも維持していくというかなと思います。ただ、現実の問題として、部活動の地域移行のところでは、やはり難しい課題も見えています。この資料の取組の方向性の中に、「市地域クラブ」という言葉が出てきていますが、私たちのように関わる者については理解できるのですが、一般の方が見て、この地域クラブが理解できるかどうかというのは思ったところですね。もう少し具体的なところを付け加えて、こういう方向性というところは書かないと、分かりづらくイメージがしづらいところかなと思います。そもそもこれは課題が大きいというところで、もう今、大人たちがどれだけスポーツをやっているかというところに関わっているので、

指導者の確保をどこまでできるかというのは、大変大きな課題であります。ただ、まきがね公園で見ていると、全体的に運動をしている人が減ってきているかという、そうではなくて、体力センターの利用がぐっと上がってきているので、チームスポーツは何となく寂しいですけど、全く運動をしていないとはまた違うということが見て取れているので、どこまで書き加えられていけるかなというところかなと思っています。

委員長 スポーツ推進審議会で話をされているのは、本当に小さい子供、恵那市は大学の先生に来ていただいて、小さい子供の運動文化、これを一生懸命やっておられるということです。それが続いて、大人に成長しているということ。結構長くやっていると思うので、後は、その環境整備がしっかりしてくれば、この5年、10年後もその仕組みはうまくいくのではないかと思います。

委員 確認ですが、例えば31ページの取組の方向性は4つ書いてあるのですが、これは順序性があるのですか。それとも同じ4項目といった感じなのか。上から順番に力の入れ具合があるのか。

教育総務課長

特にないです。

委員 分かりました。恵那市が、「主体性」「社会性」「郷土愛」で、つけたい力の3つを大事に組み立てられている。これは本当に学校現場でも浸透していて、もうみんな言える、子供も言えるようになるといいと思っていますけど、それぐらいの言葉になっているところです。29ページの「主体的に学ぶ児童生徒を育成するための授業改善を進めます。」と書いてあるのが、本当にすごく大事で、だけど、すごく重たい一文だなというふうに思います。主体的に学ぶ態度というのは、本当に難しいことで、主体性と自主性は違うので、主体的に学ぶ子というのは、そのベースとして、知識、技能、思考力、判断力、表現力をきちんと身に付けていて、その上で主体的に学ぶ力というのは発揮されるというふうに思っています。ただ、やる気があって、ただ、やみくもにやるのが主体性とは言わないので、そこのところを考えたときに、この29ページに書いてある取組の方向性のこの一文というのは、学校現場としては、本当に心して頑張っていかなければいけない一文だなということを思いながら読みました。あと、30ページにある取組の方向性の教育・発達支援センターについては、他市の学校関係者と話していても、恵那市のこの教育・発達支援センターがとても充実してきているということは、これは本当に感じています。特に発達検査と、発達検査のこのデータを基にしながら関係諸機関と保護者と学校がきちんとその子の発達について相談をして、そして、その子に合った手だてを考える、その方向性が恵那市はとてもできているということを感じますので、このことも取組の方向性の一文に書いてあるというのが、大事にしてくださっている、これからも充実させようとしてくださっているということで、うれしく思いました。

委員長 これ、園と小中学校とありますが、その辺のつながりは問題なくできていますか。
委員 接続カリキュラムというのがありまして、年長の職員から小学校に、スタート

カリキュラムという形で引き継いでいます。そういったところが県でしっかりやっていたことだったのですが、小学校の先生も忙しいし、私たちも時間が取れないところがあって、なかなか上手になっていかなかったのですが、今年度、順番に双方寄り添えたらいいのではないかなと思うような形でできてきています。今日、こども園の方は、若い職員がまさにその研修をしております。なので、寄り添ってきていい形なのではないかなと思っています。一つだけいいですか。

委員長 はい。

委員 図書館の図書活動は施策で上げてあるのですが、もう十何年も前から、ALTで英語活動というのをこども園も取り上げています。ALTが1カ月に2回来てくれて、子供たちの発音など英語がちょっと浸透してきたかなと思います。ほかの地域で、私たちが全然知らないゲームがすごく流行っているということはこの間ニュースで見ました。小学校で1年生からずっとタブレットで英語を学ぶというものでした。さっきSNSと言われたので、あまりそっちの方面にしていけないのかもしれませんが、今後、英語活動はすごく重要なのではないかなとずっと思っています。園は4本柱の中に英語活動が入っていますし、日々、日本語で過ごしている日本人は、英語が堪能にはならないと思うと、何かそういう文言は、恵那として要らないかなということを思いました。

委員 英語は力を付けるというのはなかなか難しいと思います。日常何も使わないので、ニーズもないですから。だけど、今、この辺の企業でも、いろんな国に工場を出してみえるところがあります。社長さんたちと話をしていたときに、最初どこかの国に出したときは、そこの言語ができる人が欲しかったと。だけど、いろんな国に出し始めて、会議をやろうと思ったら共通言語として英語になるのですよね。そういう意味では、やはり英語のニーズというのは大きいと思います。もう昔と違って大企業だけの話ではなくて、こういうこの恵那市とかにある企業にとっても、ニーズの高いところは当然あると思うし、外に出ていってコミュニケーションをするとすると、何カ国語も勉強するのは大変ですので、やはりベースになる、一番使われている英語というのは大事なかなと思います。今、私が危惧を持っているのは、学校の教育で、昔の英語の教育を否定しすぎて、先ほど言われたように、学力はやはりきちんとしたベースになる学力がないと使えないのです。さっきのところに関わると、「探究的な学習」は、今、世の中でとても必要とされていて、もうどこの学校レベルにも入ってきているのですが、探究学習するには、ベースの学力がなかったら何もできないのです。疑問がまず出てこないのです。課題が出てこないのです。だから基本的な学力をきちんと付けることは必要ですし、英語で言えば本当に基本的な文法力、語彙力というのがないことには何ともならないです。こんにちば、さようならとか、旅行へ行ったらちょっと使う程度のレベルなら別にいいのですが。ちょっとそれは国全体の流れとして大きな課題が今、出ているところだと思います。でも、英語のニーズというのは、より高まってきているというふうには、いろんな方のお話を聞いていて思いますので、その辺を上手に育てていけると、と

てもいいかなと思います。

それから、確かな学力のところ、最近、特に私が気になっているのが、ICT教育推進はもちろんいいですけど、ICTというのは手段であって、それを使って情報を取り入れる、あるいは離れたところの人と直接会わなくても、意思の伝達がテレビ会議とかでできるということがとても大事なんですけど、そこを上手にやらないと、脳科学者はみんな言っているんですけど、使い過ぎると学力が落ちるのです。スマホとかタブレットとかを使い過ぎると、脳には刺激にはならないので、その瞬間はいいんですけど、脳に定着しないのです。そういう意味では、ほかのところでやる読書活動を大事にするということをやったってあることは、とてもすばらしいなと思ったんですけど、最近テレビなんかだと、そういうところに気付いた小学校の先生が、ただ写すだけの授業を始めているのです。字がそろわないのです。私、ニュースを見てびっくりしました。タブレットとかスマホとか使っている子が、字を書いても、例えば平仮名で書いても、字の向きがまちまち、大きさもまちまちというのがもう出てきているのです。だから、文字をちゃんと写すだけの授業を始めている小学校が、もう幾つも出てきているよというのをテレビでやっていたので、びっくりしたのですけど。だから書くというのはとても大事なことで、タブレットではなくて、紙の教科書、紙の小説、本を読んで、そして自分でちゃんと文章を書くということをととても大事にする必要が今あるのではないかなと思います。昔から言われていますけど、GAFAとかアメリカの先端企業に行っている人は、子供にはスマホなんか与えませんので、そういうところもちょっと注意をしないと、ICTは、本当に手段として大事にすることはとても大事なんですけど、それに頼り過ぎると、とてもマイナス面がこれから時間が経つと本当に大きく出てくるので、そこをちょっと注意をしていただけるとありがたいかなというふうに、とても最近強く思っています。

委員 小中学校も書く力が本当に落ちてきています。その中で、私の学校でも視写を始めました。やはりちょっと危機感があります。おっしゃられたようにICTは本当に手段で、子供たちは小1からもうタブレットは楽々ですし、入っていた数々の学習アプリも上手に使って授業もやっているわけですけども、やっぱりそのところで十分できない部分としてやはり書く力。書く力や読む力、読解力がない子供は考える力もありませんので、やはりそのところも大事にしながら読解力や記述力ですね、書く力といったところは大事にすべきで、今、恵那市は数々の作文を書かせる。下田歌子賞のエッセイなど、いろんな募集が市からいっぱいあります。それを小学校も中学校もできるだけいろんなものをとにかくたくさん書いて、少年の主張の文章もそうだと思いますけど、そういうふうに文章をきちんと書いて応募するところもやらせていただいているので、授業でもやるのだけど、そういったところと合わさって大事にしていきたいと思います。

委員長 基本目標1のところが結構長くなりましたが、教員の資質向上のところでもちょっとお話をさせていただきます。やはり今までの教員もそうですけれども、我々

大人のコンプライアンスがあると思うのです。新しくまた5年とか10年先の新しいコンプライアンスみたいなものが出てくるといいかなというふうには少し思いました。

委員 私、現在、岩邑中学校の総合的な学習に行っています。8コースありまして、岩村の食、絵画、歴史、それからこれは獅子舞です。それから雅楽、スケート、型紙、弓道、そして岩村の自然という8つのコースのうち、私が岩村の自然コースを担当しております。ここの施策の取組の方向性のところで、「地域と連携した多様な学びができる環境を整備します。」についてですが、今、私が言ったように、岩村の自然コースを担当している関係で、岩村の町中を歩き回っているわけですけど、例えば文化財の一つである天然記念物「シデコブシ」という植物の自生地があるのですが、そこまで出かけて行って子供たちに見せます。あるいは、岩村城跡や浄化センターなんかを見学させるようなことをして、岩村を子供たちに知ってもらいたい、岩村を知るといような目的でやっているわけです。来年度から中学校が、恵那南中学校になります。そうすると、今までのことができないのではないかと思います。そこで、この「地域と連携した多様な学びができる環境を整備をします。」ということ、どういうふうにしてやっていただけるかということ、を心配しております。

教育総務課長

施策1-7の三つ目の取組の方向性のことだと思うのですが、恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会というものを立ち上げて、この統合に向けて今、進めているのですが、そういう心配のお声がありました。それで、恵那南地区、5つの地域については、先行して地域の教育拠点というものをコミュニティセンターの中に整備します。岩村以外については、コミュニティセンターの図書室など、岩村については、今、整備をしております先人顕彰拠点施設を利用します。まずは、この「地域と連携した多様な学びができる環境整備をします。」という中の、子供たちが自主学習できる環境というのは、夏休みだとか冬休み、春休みに学習意欲のある子供たちは、コミュニティセンターをよく使っているのかもしれませんが、そこをもう少しきれいに整備して使っていただくというのが、まず1つです。地域との連携というのは、統合してしまうとなくなってしまうのではないかと懸念がありますので、今度は学校の方から地域に出向くという感じでいきたいと思っています。今はどちらかというと、子供たちが、岩村なら岩村の〇〇委員たちを頼って地域の学習をします。今度は統合するので、上矢作の子や岩村の子、明智の子など、クラスごとで来ることができるのです。ですので、岩村の子に限らず、恵南の5つの地域の子が岩村の子と学んだり、明智の子と学んだりという、恵南を1つの地域として捉えて、もう少し広い形で学習に取り組んでいただきたいということで、こういった表現にさせていただきました。

委員長 ありがとうございました。それでは、次の基本目標2の説明を事務局からお願いします。

教育総務課総務係長

議事（２）次期計画案について

②施策、取組の方向性（基本目標２）について説明。

委員長 ありがとうございました。こちらは５項目ですが、同じようにご意見がある方はそれぞれお願いいたします。

委 員 施策２－３で「家庭教育力の向上のための学習機会を提供します。」のところは、分かりづらいと思うのですが、どういうことをもってこれを言うのかなというのがちょっと疑問になることではあります。実際問題これまでもできていなかったことですね。未実施の部分の結果が出ているところなので、ここをどういうふうなことに向かっていくかという、この言葉尻だけだとちょっと分かりづらい気がするので、もう少し方向性がしっくりするといいのではないかと感じました。

あと、施策２－５の「文化・芸術活動の活性化」について、取組の方向性の「共感した仲間と活動ができる場を創出します。」という部分も、どういうふうにとということと、地域がどう関わっていくのかというところが、もう少し分かるといいかなと思いました。

委員長 文言についてのところですが、方向性についてはよろしいですか。例えば家庭教育で昨年度で言えば、学童保育や放課後子ども教室をする中で、一部ですけど保護者との具体的な動きがあったのですが、さらにどういうふうに家庭教育を考えていくかということですか。

委 員 その放課後クラブとかそういうことが、家庭教育につながるのであればと思うのですが、ここだとそこまで読み取れないという気がしますし、その放課後クラブ自体が家庭教育になっているのかというのは、私も指導員として幾つも入っていますが、家庭の教育力向上の学習機会という部分ではちょっと違うような気がするので、もう少しここを違う言葉で表現された方が、結局前回も未実施みたいな形になってしまうということになるのならば、もう少し考える余地があるのではないかなというようなことです。駄目ということじゃなくて、考える余地があるということです。

教育総務課長

もう少し工夫します。

委 員 未実施になるようなことをまた同じ目標を立てるのは、ちょっとという気がしました。

委 員 ちょっと確認ですが、今、委員さんからいただいた意見は、全て施策の基になる課に一遍フィードバックして考えさせるというやり方ですね。あくまで教育総務課がここを考え直すという、そういうような乱暴な考え方ではないでしょう。そういうことでお願いします。

委員長 はい。

委 員 施策２－２の不登校対策のところの取組ということなのですが、本当にとても大事なことだと思います。今、不登校に陥って、高校なんかの入学者を見ると、通信制に進む子がとても増えているのです。また通信制で学びをして、大学に行くとか、きちんと就職できていけばそれでいいのですが、やはりそ

の通信制の実態を考えると、登校するのが週1回とか、広域通信になると、年に数回で終わるところもあるのです。そうしたときに、本当に社会性というものが身に付いて社会を支える人になってくれるかという、とても心配があります。できるだけ早い段階で、幼児教育のレベルからいろんなところとの連携をしながら、学校の先生だけではなかなかできないことがたくさんありますし、それから家庭の問題を抱えている場合もとても多いので、社会福祉から、あるいはその医療の関係から上手につないでいただいて、サポートしていただきながら、できるだけ早いうちに不登校で悩む子へのサポートをやっていただけると、とてもありがたいなというふうに思います。近くの私立高校でも、通信制に1学年200人おられます。親御さんにとってもすごく大きいのは、経済的な負担も増えていますので、通信制高校ですと、レポートを出して単位をもらうのですが、それができない子については、さらにサポート校という、言ってみれば塾みたいなもので、ダブルスクールになるのです。そういう経済的な負担も増えるということもありますので、できるだけそこに至らないようなことを早め早めにできると、とてもありがたいかなと思います。人づての話だと、親御さんのサポートも必要な場合には、その社会福祉の関係も絡んで助けてもらったという話も聞きますので、その辺のつながりが市の中で上手にできいくと、将来的には市としてもその社会福祉のお世話になる人を減らせたいと思いますので、その地域にとってもとても大事なことだなというふうに思います。

委員長 ここでもやはり2番目のコミュニケーション能力は、学校だけではなくて、地域でずっと継続しているコミュニティ・スクールとか、地域協働活動、そして青少年育成のそれぞれの諸活動がございましたね。そういうものをまた創意工夫してやっていくというふうなところが出てくるのではないかなというふうに思います。以上で、基本目標2は終わります。基本目標3の説明を事務局からお願いいたします。

教育総務課総務係長

議事(2)次期計画案について

②施策、取組の方向性(基本目標3)について説明。

委員長 最後となりましたが、いかがでございますか。

委員 「志」教育については、恵那市がずっと子供たちの、主に総合的な学習を注視してやってきているのですが、大切にしていることなので、このまま継続していくべき学習であると思っています。その上で、先ほどから出ている新歴史資料館とか、そういったものを造っていかれるということなので、今でも小学生は3年生を中心に恵那市を知るという学習の中で、スクールバスをお借りしながら、例えば長島の子も岩村の方までずっと出かけて、恵那市全体がどういう広さで、どのような地域性があるかといったところを勉強しています。そう考えると、この取組の方向性を受けて、ぜひ主な取組の中に、小学生は必ず新歴史図書館を訪れるとか、そこで先ほどあったようなお話を聞くとか、そういった学習を入れていくといいのではないかと思います。

委員 今の「志」教育というところで、私も高校にいるときに、中学校の校長先生と

話をして教えていただいたりして、とてもすばらしいなと思ったのですが、今、この中に、生き方学習というところがあるのですが、国の目標の中にもウェルビーイングという言葉が出てきていますが、今、やはりどこの地方都市も大きな課題は人口減少だと思いますので、いかにその子供たちが将来、地元で活躍してもらえるかということを考えたときに、やはり地元の良さというものを本当に知ってもらおうということがとても大切だと思いますし、それが生活の部分においても、その働き方であったり、子育ての環境であったり、あるいは住居の取得とか。私、高校では、一生を通じての可処分所得というのでやると悪くないぞという講座を高校時代からやっていたのですが、それこそ商工課さんをお願いをしてデータをつくっていただいてプレゼンしていただいて、そんな講座をやっていたのですが、そういうことも本当に身近な例も上げて、数字も上げながら、地元の生活って悪くないよということの視点でも、この生き方学習をやっていただけると、将来地元に戻ってきて、活躍して地域を支えていただく人が一人でも増えないかなということを、自分、現職の時代、特に普通科高校でしたけど、そういうことに力を入れてやっていたので、そんな観点もちょっと大事にしていただけると。数字とかで具体的な話もやっぱり入れないと、よさというものを具体的にいかに伝えるかということをちょっと観点として入れていただけるとありがたいなと思います。

委員 子供たちが、この恵那市の良さを知る、この恵那市で生きていきたいと願う、そういったような生き方の学習になっていくといいなと思っていて、例えば、今年、私の学校で言うと、恵那市のまちづくり企画部の方に来ていただいて、6年生の児童が、恵那市はこんなことをやっていて、そしてこんな良さがあったって、こんなふうに生き生きと生活している人がいるんだよというようなことを施策とともに、いっぱい話を聞かせてもらうということを、この1学期にやりました。そういったところで、僕たち子供の目線からすると、こんなこともあるといいな、やれるといいなといったようなことを考えて、そして3学期にもう一度来ていただいて、僕たちの考えを聞いてもらおうみたいなことをやっているのですが、やはりそういったところを小学校、中学校と積み重ねていくことで、子供の志であるとか、生き方というのは醸成されてくると思っているので、そういった発達に応じた小中学校、高校も含めてやってきたことが大事ななと思います。

教育長 昨日ですけど、中学生と恵那市の未来を語る会で、議場へ入って議員さんたちと交流するというようなことを、もうこれで4年目になるのですが、過去3年間はSDGsに絡めてなのですが、今年は良さということで開催されました。議員さんの1人が、恵那市は良さが何もありませんと言われたらどうしようと、すごく不安だったという話をされたときに、本当に各学校が良さね、それも実際に体験してとか、地域に行こうという活動して良さを感じたということで、すごく説得力のある話をしてくれました。最近、成人式なんかでも、子供たちが恵那市はいい、戻ってきたいと言う子がすごく増えたということは、時間はかかっていますが、こういう生き方学習とか、「志」教育をやっていくこと

は大切なということと、実際にあの場でしゃべったことが恵那市は早いので
すね。もう翌年には、できることは現実になって動いていくので、これもすご
いなど、本当に行政の方のお力だなと思うのですが、今回も岩邑中学校が残
るから、体育館は何かスポーツジムにして、教室は何とかにしてなど具体的な
提案をされて、できるかどうかは別にして、そういうことを考えているんだな
ということで、ぜひ私たちもこれは大切にしていきたいということを思ってい
ますので、また表現は工夫して分かるようにしたいなと思っています。

委員長 皆さま、ありがとうございました。これで議事（２）を終了します。議事（３）
今後のスケジュールについて、よろしくお願いします。

教育総務課総務係長

議事（３）今後のスケジュールについて説明。

委員長 どうもありがとうございました。それでは、以上でこの議事を終了させていた
だきます。委員の皆さま、ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお
返しいたします。

３ その他

教育総務課長

第２回策定委員会の議事に関する意見提出及び次回開催予定について説明。

閉会

教育総務課長

本日いただきましたご意見の反映と、主な取組例、各施策ページの作成を今後
も作業部会で進めてまいりますので、また次回、ご審議をいただきたいと思います。
ております。

委員の皆さま、大変長い時間でしたが、お疲れさまでございました。
また次回もよろしくお願いいたします。ありがとうございました。